



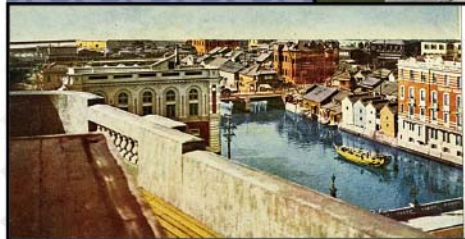
中央区

歴史・文化



The History and Culture of Chuo City

ガイドブック



目次

エリアガイド

- A** 本町～日本橋……………3～8
- B** 小伝馬町～東日本橋……………9～14
- C** 人形町～浜町～中洲……………15～18
- D** 京橋～銀座……………19～24
- E** 兜町～八丁堀～新川……………25～30
- F** 築地～明石町……………31～36
- G** 佃～月島……………37～40



歴史「モノ、がたり」

- Episode 1 東京日本橋盛観……………8
- Episode 2 東都両国ばし夏景色……………14
- Episode 3 清洲橋……………18
- Episode 4 鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図……………24
- Episode 5 江戸橋ヨリ錨橋遠景……………30
- Episode 6 新東京百景 中央市場……………36
- Episode 7 日本万国博覧会抽籤券附回数入場券……………40



見る・知る・学ぶ

文化施設ガイド……………41

中央区全図



エリアA

- 日本銀行本店本館
- 常盤橋門跡
- 三越日本橋本店
- 三井本館
- 日本橋魚市場発祥の地
- 日本橋
- 名水白木屋の井戸
- 郵便発祥の地
- 高島屋東京店
- 一石橋迷子しらせ石標
- 一石橋の親柱



凡例

文化財 記念碑

文化施設など

公衆トイレ だれでもトイレ

公園(小規模・高架下等) 区役所・区民センター

神社 寺院 救急病院 警察署など 消防署など

学校 郵便局 図書館 美術館・博物館など

0 1:10,000 200m



歴史と文化

日本銀行本店本館 (国指定重要文化財)

📍 日本橋本町2-1-1



🏛️ 文化財 🏛️ 記念碑

🏛️ 日本銀行本店本館は、明治29年(1896)に中央銀行業務を行う新施設として建設されました。ジョサイア・コンドルに師事した辰野金吾が設計し、地上3階・地下1階の石積みレンガ造(石積みの内側にレンガを積んだ外壁を持つ)建築です。ベルギーの中央銀行をモデルに設計したとされ、全体を覆う重厚な石と周囲を建物で囲んだ堅牢な構造に特徴があります。ネオ・バロック様式を主としながら、壁面にはルネサンス様式の意匠を加味したデザインも施されています。

常盤橋門跡 (国指定史跡)

📍 日本橋本町2・3～千代田区大手町2



🏛️ 江戸城外郭の正門にあたる常盤橋門は、江戸時代から明治6年(1873)までありました。明治維新後に撤去されましたが、寛永6年(1629)に築かれた枳形石垣や濠沿いの石垣が良好に残る城門跡です。明治10年(1877)改架の石造2連アーチ橋(常盤橋)も特徴的なデザインです。

三越日本橋本店 (国指定重要文化財)

📍 日本橋室町1-4-1



🏛️ 三越日本橋本店は、昭和2年(1927)竣工の鉄骨鉄筋コンクリート造(地上7階・地下1階)の当初部をベースに、戦前から戦後にかけて増築を重ねてきた建物です。外観は西洋の古典様式。内部は重厚な色調の三越ホールやアール・デコ調のホールなど、質の高い意匠が施されています。

三井本館 (国指定重要文化財)

📍 日本橋室町2-1-1



🏛️ 昭和4年(1929)竣工の三井本館は、三井合名会社・三井銀行・三井信託銀行・三井鉱山などの本社が入るオフィスビルとして開館しました。鉄骨鉄筋コンクリート造(地上7階・地下2階)の建物で、外部のコリント式オーダーや内部の吹き抜けに立ち並ぶドリ式柱が特徴的です。

日本橋 (国指定重要文化財)

📍 日本橋1～日本橋室町1



🏛️ 慶長8年(1603)に初めて架橋された日本橋は、江戸時代から明治後期の間に20回近く架け替えられてきました。現在の橋は、明治44年(1911)に完成した石造2連アーチの橋梁で、都内でも数少ない明治期を代表する石造橋です。橋柱や四隅には東京市の繁栄を表す麒麟や守護を表す獅子のブロンズ像が据えられ、各所に施された和漢洋折衷の優れた装飾も見事に調和しています。この橋は日本橋地区の歴史的景観の骨格ともいえる建造物です。

日本橋魚市場発祥の地

📍 日本橋室町1-8先



🏛️ 日本橋から江戸橋までの北岸(魚河岸)には、江戸時代から大正12年(1923)まで荷揚げされた近海諸地方からの魚介類や塩干魚を売買する魚市が開かれていました。日本橋魚市場の起源は、佃島の漁師たちが將軍や諸大名へ献上した残魚を販売した江戸時代初期にまでさかのぼります。

しろきや 名水白木屋の井戸 (東京都指定文化財)

📍 日本橋1-6



江戸時代に「白木名水」とうたわれた清水が湧出した場所です。正徳元年(1711)、呉服商を営む白木屋2代・大村彦太郎が私財を投じて井戸掘りに着手し、将軍家をはじめ諸大名にも献上するほどの良質な水が湧き出したといわれています。湧水の跡地付近には記念碑が立っています。

高島屋東京店 (国指定重要文化財)

📍 日本橋2-4-1



高島屋東京店は、昭和8年(1933)に高島屋と日本生命保険株式会社東京支店事務所(日本生命は昭和38年に転出)が入る建物として建設されました。建築図案競技で一等に選出された高橋貞太郎の設計案を基に、鉄骨鉄筋コンクリート造(地上8階・地下2階)の商業店舗として竣工・開店し、戦後は昭和26年(1951)から昭和40年(1965)に村野藤吾が増築を手掛けました。当初部分(高橋設計)と増築部(村野設計)の優れた意匠が調和した百貨店建築です。

文化財 記念碑

郵便発祥の地 (中央区民文化財)

📍 日本橋1-18-1



日本の近代的な郵便制度が発足した明治4年(1871)に、郵便事業を統括する郵便通司と取扱機関の郵便役所が設置された場所です。新式の郵便業務(郵便箱や切手など)は、東京・大阪間でスタートしました。日本橋郵便局が立つ場所には、郵便制度を創設した前島密の胸像があります。

いちこくばし 一石橋迷子しらせ石標 (東京都指定文化財)

📍 八重洲1-11先



安政4年(1857)に西河岸町(現在の日本橋一丁目・八重洲一丁目)の町人たちが建立した迷子情報を知らせる石標です。正面に「満よひ子の志るべ」とあるこの石碑は、左側(「たづぬる方」)と右側(「しらす方」)にそれぞれ迷子や尋ね人の特徴を記した紙を貼って告知しました。

一石橋の親柱 (中央区民文化財)

📍 八重洲1-11先



外堀と日本橋川の分流点に架橋されていた一石橋の親柱です。大正11年(1922)に鉄筋コンクリート造アーチ橋として改架された時の親柱で、1年後に発生した関東大震災にも耐えた橋梁の一部です。外壁に花崗岩が使用されていた堅牢な旧一石橋の面影を今に伝えています。

歴史モノがたり

東京日本橋盛観 大正期



Episode 1

日本橋一帯のパノラマ写真を4枚続きの絵はがきにしました。この当時、日本橋のたもと近くに立っていた村井銀行の屋上から撮影したもので、関東大震災前の日本橋の様子が一望できます。日本橋から江戸橋方面へと広がる日本橋川北岸の魚河岸や土蔵造りのまち並み、日本銀行本店本館や日本橋北西詰に立つ赤レンガの帝国製麻ビル、目抜き通り沿いに立つルネサンス様式の三越呉服店などがひととき目を引きまします。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>

エリアB

- 江戸屋店舗兼住宅
- 伝馬町牢屋敷跡
- 木造日蓮聖人坐像
- 銅鐘石町時の鐘
- 吉田松陰終焉の地
- 相森神社
- ハリオグラスビル
- 両国広小路記念碑
- 柳橋
- 講談発祥記念の碑
- 順天堂発祥の地



凡例

文化財 記念碑

文化施設など

公衆トイレ

だれでもトイレ

公園(小規模・高架下等)

区役所・区民センター

神社

寺院

救急病院

警察署など

消防署など

学校

郵便局

図書館

美術館・博物館など

0 1:10,000 200m



B 小伝馬町
東日本橋

歴史と文化

文化財 記念碑



江戸屋店舗兼住宅 (国登録有形文化財)

日本橋大伝馬町2-16

旧奥州・日光街道にあたる大伝馬本町通り(道路愛称)は、江戸時代には表通りに多くの店が立ち並び商業地として錦絵にも描かれています。江戸刷毛の老舗として営業を続ける江戸屋は、享保3年(1718)の創業以来この目抜き通りに店を張ってきました。現在の建物は、大正13年(1924)に竣工した木造2階建ての店舗兼住宅です。人造石洗い出し仕上げの建物で、正面には刷毛を表現した意匠を施すなどユニークな看板建築です。

木造日蓮聖人坐像 (東京都指定文化財)

日本橋小伝馬町3-2 身延別院



室町時代後期の明応6年(1497)に仏師・定蓮が制作した寄木造(玉眼嵌入)の木彫像(像高70センチ)です。この尊像は、日蓮宗総本山・身延山久遠寺の宝蔵から芝二本樓の日蓮宗大教院の本尊として遷座し、明治16年(1883)に創建した身延別院の祖師堂へと安置されました。

伝馬町牢屋敷跡 (東京都指定文化財)

日本橋小伝馬町3・4・5



慶長期(1596~1615)から明治8年(1875)まであった牢屋敷の跡地です。その面積は、現在の十思公園・十思スクエア・大安楽寺・身延別院を含む2,600坪を超える規模でした。周囲に堀や土手を築き、高い土塀を回した堅牢な牢屋敷には、身分や性別などで区分した牢がありました。

銅鐘石町時の鐘 (東京都指定文化財)

日本橋小伝馬町5-2 十思公園内



江戸時代から明治初期まで、人々に時刻を知らせるために撞いていた鐘が「時の鐘」です。石町(本石町)の時の鐘は、寛永3年(1626)に本石町三丁目(現在の日本橋室町四丁目付近)へ鐘樓堂を建てて鐘を撞いたのが始まりです。現存している鐘には、宝永8年(1711)鑄造(改鑄)の銘が記されています。明治初期まで時報用に撞いていたこの鐘は、関東大震災後に建立した鉄筋コンクリート造の鐘樓(十思公園内)へと移設し、保存が図られています。

吉田松陰終焉の地

日本橋小伝馬町5-2 十思公園内



幕末の思想家・吉田松陰は、安政の大獄に連座して伝馬町牢屋敷に収容され、安政6年(1859)に刑死しました。牢屋敷跡の当地には、松陰を偲ぶ石碑(郷里・萩の有志が建立した終焉の地碑。辞世の句「身はたとひ武蔵の野辺に朽ぬとも留置まし大和魂」を刻んだ碑)が立ち並んでいます。

榎森神社 (中央区民文化財)

日本橋堀留町1-10-2



榎森神社の境内に立つ建物(社殿・社務所・神楽殿・水盤舎・鳥居など)は、関東大震災後の昭和6年(1931)に再建された鉄筋コンクリート構造です。境内は伝統的な意匠を持つ白塗りの神社建築で構成されていますが、社殿の東側に隣接して立つ社務所は洋風建築の特徴的な外観です。

ハリオグラスビル(国登録有形文化財)

日本橋富沢町9-3



昭和7年(1932)竣工のハリオグラスビルは、銀行(川崎貯蓄銀行・常陽銀行)支店として用いられてきた鉄筋コンクリート造の建物です。外観デザインは西洋の古典様式で、周囲には満彫したコリント式オーダーを回し、北西角の隅切り部にはイオニア・ドリスの両様式がみられます。

柳橋(中央区民文化財)

東日本橋2～台東区柳橋1



昭和4年(1929)竣工の柳橋は、関東大震災後の復興事業で改築された鋼鉄製の橋梁です。神田川の河口に位置する橋梁であったため、隅田川を航行する船頭が位置を確認しやすい形状で設計されました。また、隅田川に架かる永代橋をモデルにしたことから、シンプルで重量感のあるデザインとなっています。耐震構造や船の通航などを考慮して計画された柳橋は、昭和初期の橋梁技術と特徴的なデザインを今に伝えています。

文化財 記念碑

両国広小路記念碑

東日本橋2-26-1先



明暦3年(1657)の大火後、防災・避難の便を図るために武蔵と下総を結ぶ両国橋が架橋されました。往来の多い両国橋には、橋詰に延焼防止を目的とする防火帯の火除明地(広小路)が設けられました。仮設の店舗や芸能が催された両国広小路は、江戸最大の盛り場へと発展しました。

講談発祥記念の碑

東日本橋2-6-8 葉研堀不動院境内



太平記の講釈を前身とする講談は、江戸時代に発展した朗読を基本とする芸能の一つです。演者である講釈師には、元禄5年(1692)に浅草見附の傍ら(現在の浅草橋のたもと)で講じた赤松清左衛門が知られています。浅草見附の講釈場に近い不動院境内には石碑が建立されています。

順天堂発祥の地

東日本橋2-6-8 葉研堀不動院境内



蘭方医の佐藤泰然は、天保9年(1838)に葉研堀(現在の東日本橋二丁目)へ蘭方医学塾「和塾」を開きました。その後、下総国佐倉藩主の招きで佐倉に西洋医学の塾「順天堂」を開設しています。不動院境内には、順天堂大学の発祥にあたる和塾の創設を記念した石碑があります。

歴史モノがたり

東都両国ばし夏景色

安政6年(1859) 歌川貞秀/画

Episode 2



江戸の夏を代表する風物詩「両国の川開き」。で催される花火の見物風景を描いた錦絵です。画面中央の両国橋は、花火を間近で見ようとする群衆で埋め尽くされています。隅田川下流には、夏の夜空を彩る鍵屋の仕掛け花火が打ち上げられ、舟上から見物する人も集まって大いににぎわっています。魚眼レンズを通したような隅田川の歪曲表現が、その場にいるような臨場感を感じさせる非常にダイナミックな作品です。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>

エリアC

- 鉄造菩薩頭
- 小網神社社殿・神楽殿
- 日本銀行創業の地
- 震災避難記念碑
- 清洲橋

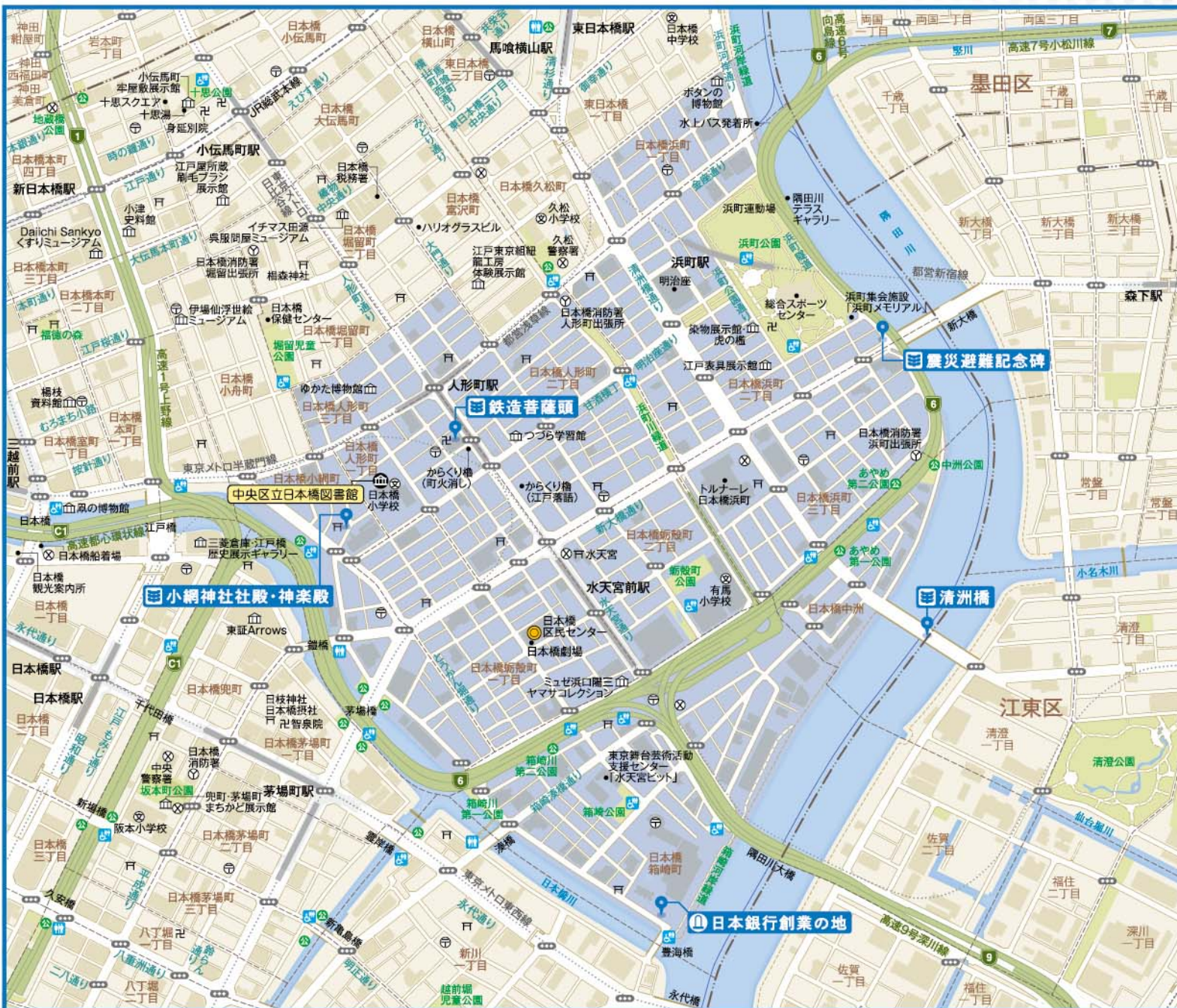


凡例

- 文化財 文化施設など 公衆トイレ
- 記念碑 だれでもトイレ

- 公園(小規模・高架下等) 神社 寺院 救急病院 警察署など 消防署など
- 学校 郵便局 図書館 美術館・博物館など

0 1:10,000 200m



人形町・中洲

歴史と文化

鉄造菩薩頭(東京都指定文化財)

日本橋人形町1-18-9 大観音寺



大観音寺の本尊である菩薩頭は鎌倉時代に制作された鉄造の仏頭(高さ170センチ・幅54センチ)です。鎌倉時代に被災した鎌倉・新清水寺の菩薩像であったといわれ、後に掘り出された仏頭を明治9年(1876)から安置しています。本尊のご開帳は、毎月11日と17日です。

日本銀行創業の地

日本橋箱崎町19先



明治15年(1882)制定の日本銀行条例に基づいて、同年10月に日本銀行が業務を開始した場所です。旧永代橋のたもとにあったレンガ造2階建ての北海道開拓使物産売捌所(設計者はジョサイア・コンドル)を使用し、明治29年(1896)に現在地へ移転するまで業務が行われました。

文化財 記念碑

小網神社社殿・神楽殿(中央区民文化財)

日本橋小網町16-23



小網神社の社殿と神楽殿は、関東大震災後の昭和4年(1929)に再建された木造の神社建築です。伝統的な意匠を継承した社殿には、向拝部分に龍・獅子・ばく・鳳凰・波などの優れた彫刻が施されています。境内地の区画にあわせて五角形の平面を持つ神楽殿の造りも珍しいものです。

震災避難記念碑

日本橋浜町2-57先



関東大震災の発生時に新大橋へ避難した多くの人命が救われたことを記念し、昭和8年(1933)に石碑が建立されました。震災で多くの橋が被害を受ける中、明治45年(1912)竣工の鉄骨トラス橋・新大橋(昭和期に改架)は、落橋や火災から人々を守り、「人助け橋」と称えられました。

清洲橋(国指定重要文化財)

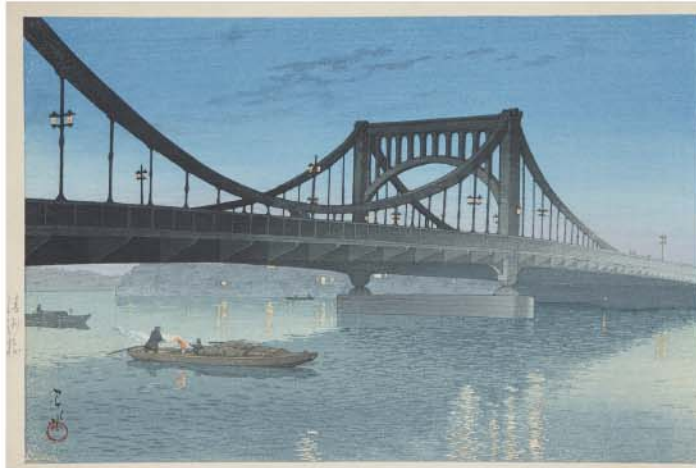
日本橋中洲～江東区清澄1



昭和3年(1928)に架橋された清洲橋は、関東大震災後の復興事業で竣工した代表的な橋梁の一つです。この橋梁の名は、架橋当時にあった隅田川東岸の深川区清住町と西岸の日本橋区中洲町を結んだことから、両町名の一字をとって「清洲橋」と命名されました。ドイツのライン川に架かっていた吊橋(戦禍で滅失)を参考に設計したといわれ、曲線的で優美な外観から「女性的な橋」として形容されています。

歴史「モノ」がたり

清洲橋 昭和6年(1931) 川瀬巴水/画



Episode 3

近代橋梁を代表する美しい形態の清洲橋が、暮れなずむ隅田川の風景の中に優しく溶け込んでいるような版画です。作者の川瀬巴水は、特徴的な三径間の吊橋を上品で流れるような曲線で強調し、この橋梁の持つ構造・構成・装飾の美しさを見事に描き出しています。日が沈み静寂に包まれる夕刻の中、川面に揺らぐ明かりの波紋が広がり、ゆったりと舟を漕ぐ櫓の音が聞こえてくるような情趣に富んだ作品です。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>

エリアD

- 明治屋京橋ビル
- 京橋大根河岸青物市場跡
- 江戸歌舞伎発祥の地
- ヤン・ヨーステン記念碑
- 煉瓦銀座の碑
- 京橋の親柱
- 銀座発祥の地
- 銀座出世地蔵尊
- 銅造彫刻「燈臺」
- 北村透谷・島崎藤村記念碑
- 石川啄木歌碑



凡例

文化財 記念碑

文化施設など

公衆トイレ

だれでもトイレ

公園(小規模・高架下等) 区役所・区民センター

神社

寺院

救急病院

警察署など

消防署など

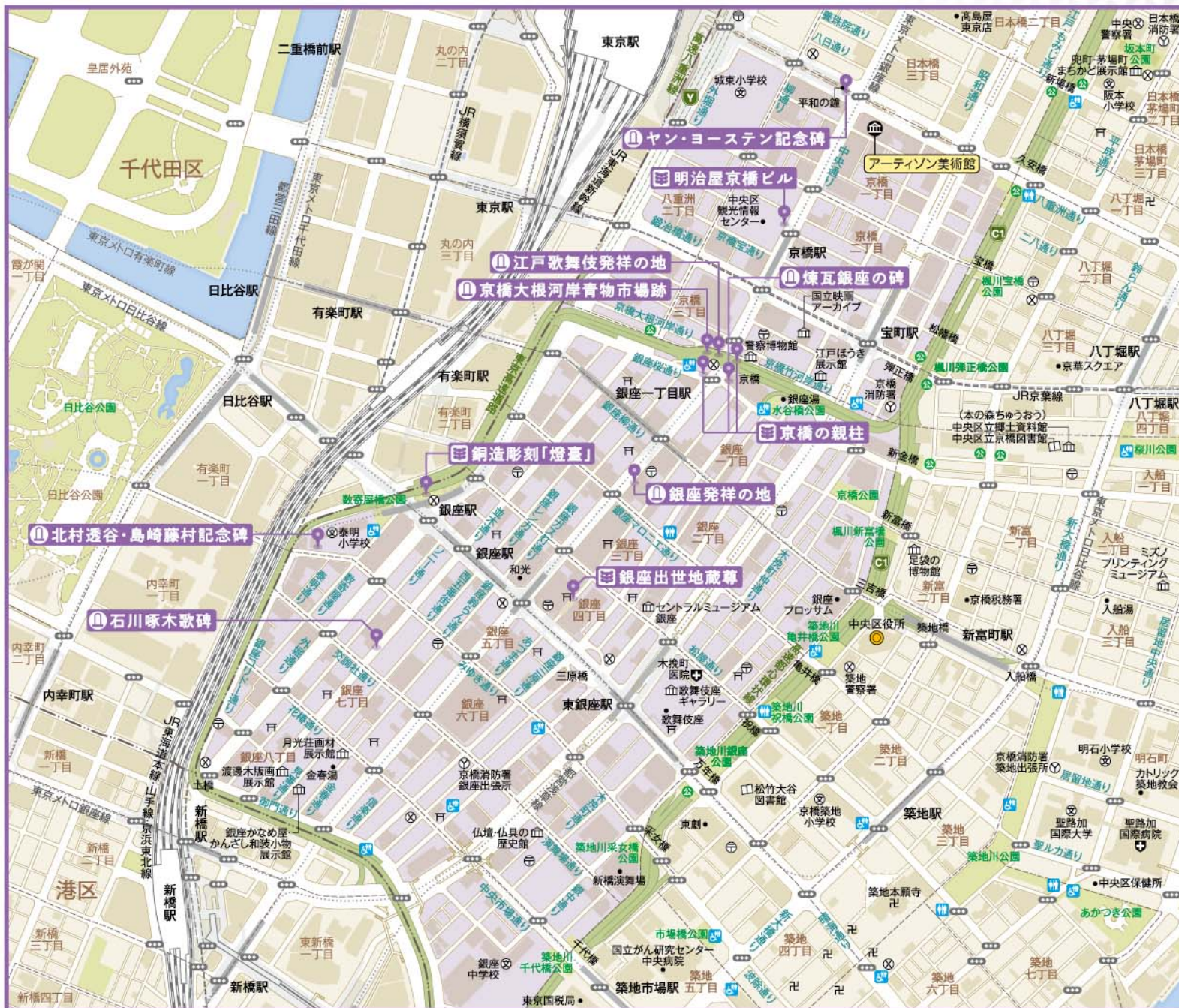
学校

郵便局

図書館

美術館・博物館など

0 1:10,000 200m



D 京橋・銀座

歴史と文化

明治屋京橋ビル (中央区指定文化財)

京橋2-2-8

明治屋京橋ビルは、昭和8(1933)年3月に株式会社明治屋の事務所と店舗を兼ねた本社社屋として建設されました。曾禰中條建築事務所が設計した鉄骨鉄筋コンクリート造(地上8階・地下2階)のオフィスビルで、イタリア・ルネサンス様式による外観デザインとなっています。昭和初期の高度な建築技術を反映させた貴重な近代建築であるとともに、地下鉄駅と一体化して建設された現存最古のビルとして、歴史的にも文化的にも価値の高い建物です。



京橋大根河岸青物市場跡

京橋3-4先

京橋川の北岸には、京橋の北西側に大根河岸(北東側に竹河岸)と呼ばれる河岸地がありました。江戸時代以来、近郊野菜を立ち売りする青物市が立ったこの河岸地には、荷揚げした大根が数多く積み上げられたといわれます。関東大震災後、京橋の青物市場は築地市場内へ移転しました。

江戸歌舞伎発祥の地

京橋3-4先

寛永元年(1624)に中橋の南地(現在の京橋一丁目付近)で猿若座(後の中村座)が檣をあげて歌舞伎興行を始めました(芝居小屋は寛永9年に移転)。江戸における歌舞伎は、猿若座の初代中村勘三郎による芝居が発祥といわれています。跡地近くの京橋のたもとには記念碑があります。



文化財 記念碑

ヤン・ヨーステン記念碑

八重洲通り



ヤン・ヨーステンは、慶長5年(1600)に豊後国(現在の大分県)へ来航したオランダ船の航海士でした。その後、徳川家康の信任を得て外交顧問・通訳・貿易の任に当たり、和田倉門外に屋敷を与えられました。平戸のオランダ商館設立(1609年)以来の日蘭修好を記念した石碑です。

京橋の親柱 (中央区民文化財)

銀座1-2先・銀座1-11先・京橋3-5先

京橋川に架けられていた京橋の欄干両端部にあった親柱です。中央通り沿いの歩道には京橋の石造親柱が3基残されています。このうち、擬宝珠が付いた木造橋のような雰囲気の子柱2基(「京橋」「きやうはし」の陰刻がある)は、明治8年(1875)に石造アーチ橋として架橋された時のものです。また、照明設備を備えた近代的なデザインの親柱1基は、大正11年(1922)にアール・デコ調の洋式橋梁として架橋された時のものです。



煉瓦銀座の碑

銀座1-11先



文明開化の象徴であった銀座煉瓦街の歴史を記念する碑です。明治初期の銀座地区には、明治5年(1872)の大火を契機に不燃性の煉瓦家屋(煉瓦造2階建ての洋風建築)が建設されました。石碑床面に敷き詰めた煉瓦(発掘された明治期の煉瓦)は、フランス積みで再現されています。

銀座発祥の地

銀座2-7先



江戸幕府の銀貨鑄造所であった「銀座」の歴史を記念する石碑です。慶長17年(1612)に駿府(現在の静岡市葵区両替町)に置かれていた銀座を閉鎖し、江戸の新両替町二丁目(現在の銀座二丁目)に新設しました。江戸における通用銀貨の鑄造・検査が行われた発祥の地になります。



銀座出世地蔵尊(中央区民文化財)

銀座4-6-16 銀座三越9階テラス



明治初年から銀座の地で祭られてきた石造の地蔵菩薩立像です。出世地蔵の名称には諸説ありますが、三十間堀付近の地中から「掘り出されて世に出た。ことに由来すると伝えられています。六角堂内に安置されている尊像は、世の中の平穏と出世を願う人々から篤く信仰されています。

銅造彫刻「燈臺」(中央区民文化財)

銀座4-1 数寄屋橋公園内

この記念碑は、昭和8年(1933)9月1日に関東大震災10周年記念塔として建立されたものです。石造の台座には「不意の地震に不断の用意」と記された銘板があり、震災の歴史と教訓を今に伝えています。台座上の銅造彫刻は、長崎市の「平和祈念像」の作者としても知られる北村西望が制作しました。力強く逞しい造形の彫刻は、北村が昭和6年(1931)に美術展へ出品したもので、記念塔の建立にあたって台座上に設置されました。

北村透谷・島崎藤村記念碑

銀座5-1-13 泰明小学校



明治11年(1878)に開校した泰明小学校は、近代文豪の北村透谷(詩人・評論家)や島崎藤村(詩人・小説家)が学んだ学校です。北村(明治15年卒)・島崎(明治17年卒)とともに現在の銀座四丁目から通学していました。同校の敷地には、偉大な文豪たちが学んだ記念の碑があります。

石川啄木歌碑

銀座6-6-7先



石川啄木(詩人・歌人)は、明治42年(1909)に入社した京橋区滝山町(現在の銀座六丁目)の朝日新聞社で校正の仕事をしてながら創作を続けました。同社跡地に立つブロンズ製の碑には、啄木の歌「京橋の瀧山町の新聞社灯ともる頃のいそがしかな」と啄木鳥が施されています。

歴史モノがたり

鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図 明治15年(1882) 歌川広重(3代)／画

Episode 4



文明開化を迎えた明治期の銀座一丁目のまち並みと往来する鉄道馬車の様子を描いた錦絵です。京橋川北岸にあたる画面左には、近郊から運ばれてくる竹材の集積地・竹河岸が江戸時代以来の風情を伝えています。銀座一丁目に立ち並ぶ煉瓦造りの洋風建物には、砂糖・寿司・牛肉割烹料理といった多様な店舗が軒を連ね、楽しげな人びとの表情からも明治東京を代表する繁華街の様子が伝わってきます。

収蔵品アーカイブズ

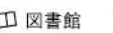
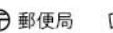
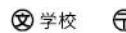
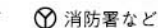
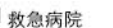
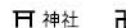
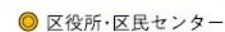
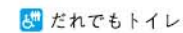
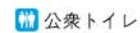
<http://www.chuo-museum.jp>

エリアE

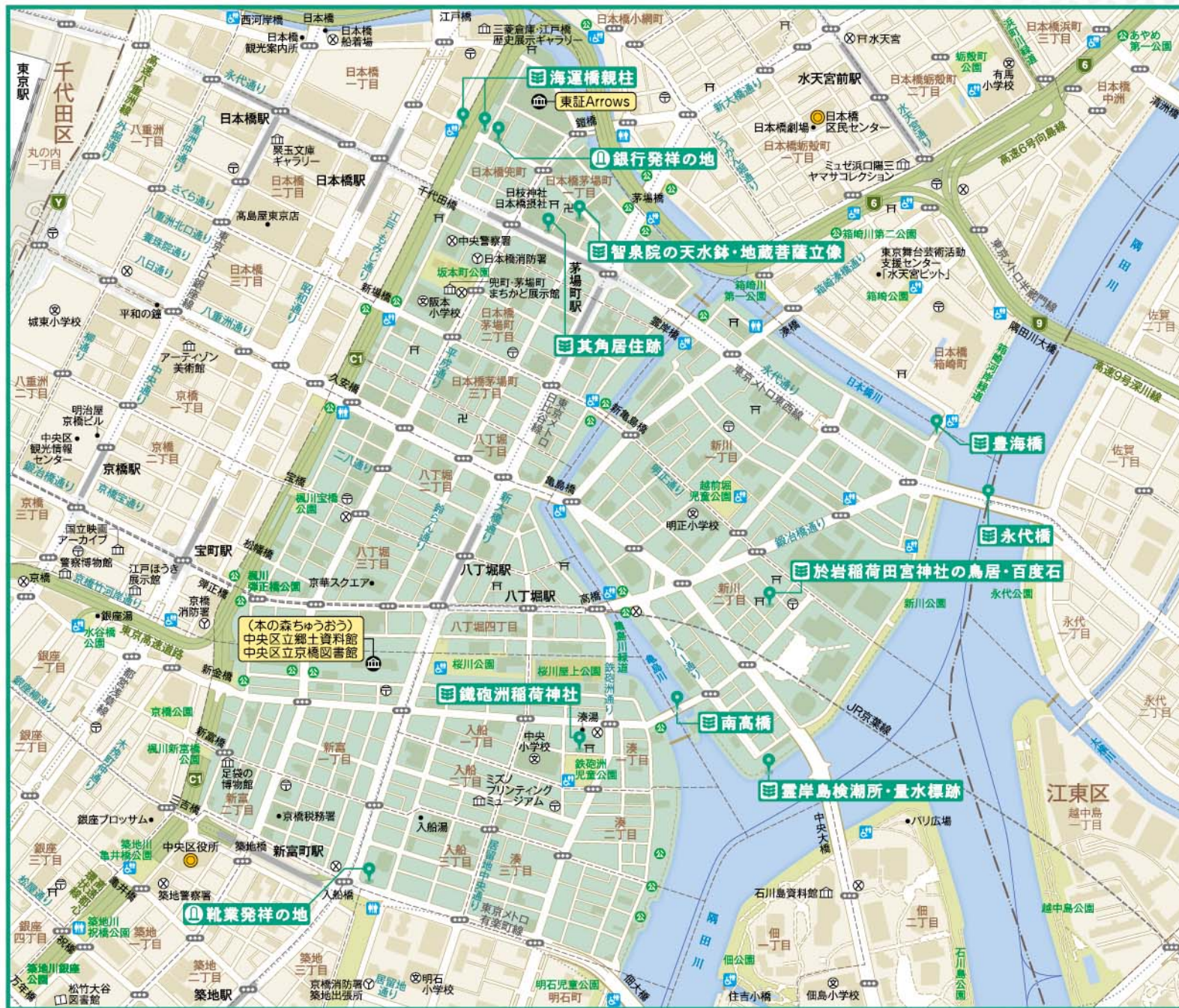
- 智泉院の天水鉢・地藏菩薩立像
- 其角居住跡
- 海運橋親柱
- 銀行発祥の地
- 靴業発祥の地
- 鐵砲洲稲荷神社
- 南高橋
- 豊海橋
- 永代橋
- 靈岸島検潮所・量水標跡
- 於岩稲荷田宮神社の鳥居・百度石



凡例



0 1:10,000 200m



E 八丁堀・新川

歴史と文化

文化財 記念碑

智泉院の天水鉢・地藏菩薩立像 (中央区民文化財)

日本橋茅場町1-5-13



薬師如来を本尊とする智泉院は、江戸の人々から茅場町薬師と呼ばれて篤い信仰を集めた寺院です。境内にある一対の天水鉢は、天保12年(1841)に坂本町(現在の日本橋兜町)から奉納されたもので、江戸の鋳物師・釜屋七右衛門の鋳造です。また、昭和2年(1927)に建立した銅造地藏菩薩立像は、関東大震災で犠牲となった魚河岸関係者の供養を目的に鋳造したもので、彫刻家・戸張弧雁が制作に関わった近代的な仏像です。

其角居住跡 (東京都指定文化財)

日本橋茅場町1-6-10



榎本(後に宝井)其角は、江戸時代に活躍した俳諧師です。若くして松尾芭蕉の門人となり、「越後屋に衣さく音や更衣」「鐘一つ売れぬ日はなし江戸の春」といった才気に溢れる名句を数多く詠んでいます。市井の宗匠として南茅場町の薬師堂近くに居住し、多くの門人を集めました。

海運橋親柱 (中央区民文化財)

日本橋兜町3先・日本橋1-20先



明治8年(1875)に改築された西洋風の石造アーチ橋・海運橋の親柱です。かつての掘割(首都高速道路都心環状線の下を流れていた)を渡した海運橋は、橋詰の擬洋風建築・第一国立銀行と併せて取り上げられる名所の一つでした。文明開化期の明治東京を物語る記念の親柱です。

銀行発祥の地

日本橋兜町4-3



明治5年(1872)制定の国立銀行条例に基づいて、明治期には多くの国立銀行(条例に基づく民間銀行)が設立されました。この地には、明治6年(1873)に三井組・小野組の共同出資で創設した日本で最初の近代的な銀行「第一国立銀行」がありました。2代清水喜助が設計・施工した第一国立銀行は、4階建ての和洋折衷(擬洋風)建築で、明治東京の新名所となりました。みずほ銀行兜町支店の壁面には、この銀行建物の変遷が紹介されています。

靴業発祥の地

入船3-2-10



旧佐倉藩士であった西村勝三は、明治3年(1870)に入船町五丁目(現在の入船三丁目)へ日本初の洋式製靴工場「伊勢勝造靴場」(現在のリーガルコーポレーションの前身)を開設しました。軍靴の製造や築地外国人居留地の革靴需要に応じたこの工場は、日本の製靴産業の原点です。

鐵砲洲稲荷神社 (中央区民文化財)

湊1-6-7



鐵砲洲稲荷神社には、関東大震災後に再建した昭和初期の神社建築が立ち並んでいます。昭和10年(1935)造営の権現造(複合社殿の形式)の社殿をはじめ、昭和12年(1937)に造営した入母屋造の神楽殿や切妻造の摂社・手水舎など、銅板葺の屋根が趣深い景観を生み出しています。

みなみ たかばし

南高橋 (中央区民文化財)

● 湊1～新川2



亀島川に架かる鋼鉄トラス橋・南高橋は、昭和7年(1932)に架橋された震災復興橋梁の一つです。明治37年(1904)竣工の三連トラス橋・両国橋を改架する際、この橋の中央径間部分を移設・補強して南高橋が完成しました。明治期の旧両国橋を転用した現役の道路橋として貴重です。

永代橋 (国指定重要文化財)

● 新川1～江東区佐賀・永代1



関東大震災後の帝都復興事業で改架された永代橋は、大正15年(1926)に竣工しました。建設当時は、日本における最大支間を実現させた技術的完成度の高い鋼アーチ橋でした。ソリッドリブアーチの重厚な造形を特徴とする永代橋は、清洲橋と対照的な外観デザインの隅田川橋梁です。

文化財 記念碑

とよ み ばし

豊海橋 (中央区民文化財)

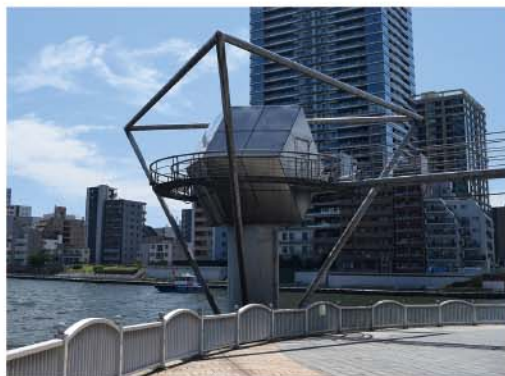
● 新川1～日本橋箱崎町



日本橋川河口部に架かる復興橋梁・豊海橋は、昭和2年(1927)に架橋された下路式の鋼鉄フィーレンデル橋です。骨太な部材が格子状に組み合わせられたような外観は、隣接する重厚なアーチ橋・永代橋とのバランスを考慮して設計されました。国内でも数少ない珍しい形式の橋です。

霊岸島検潮所・量水標跡 (中央区民文化財)

● 新川2-32-1先



明治6年(1873)に開設した隅田川河口の霊岸島検潮所は、標高基準を定めるための水位観測所でした。この検潮所の量水標で測った平均水面を基準(標高0m)として、日本水準原点(千代田区永田町)の標高が決定されました。旧検潮所跡にはシンボリックな観測柱が設置されています。

於岩稲荷田宮神社の鳥居・百度石 (中央区民文化財)

● 新川2-25-11

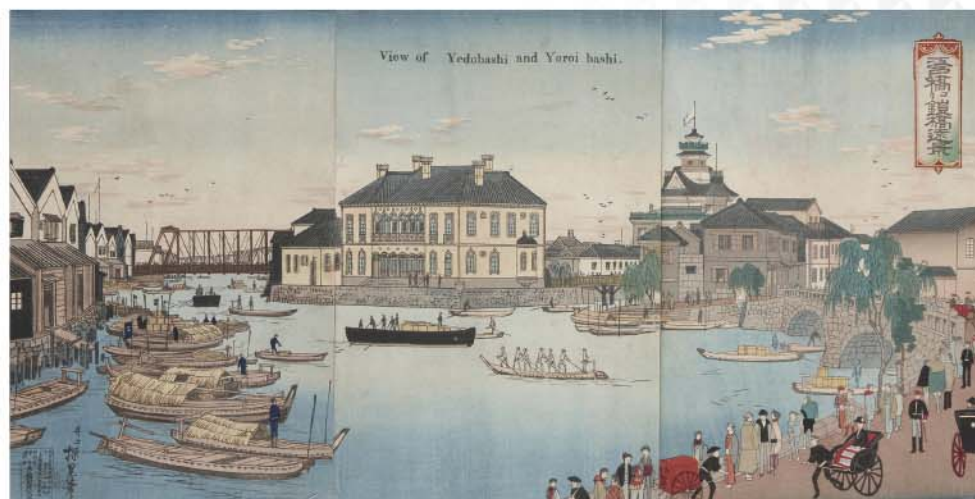


4代鶴屋南北の作品「東海道四谷怪談」で有名な主人公・お岩の伝承をもつ神社です。本殿の横に立つ小規模な石造鳥居は、明治30年(1897)に建立された直線的なデザインの神明鳥居で、柱下部には根元を囲む石造の根巻と方形の台石で構成されています。また、この鳥居の奥にある百度石(お百度参りのための石柱)は、大正3年(1914)に市川右団次が大阪・浪花座で興行した「四谷怪談」を記念して寄進したもので、区内で最も古い百度石です。

歴史モノがたり

江戸橋ヨリ鰐橋遠景 明治21年(1888) 井上探景/画

Episode 5



明治中期ごろの日本橋川の舟運と兜町付近の様子を描いた錦絵です。画面左には、江戸時代以来の土蔵が立ち並ぶ小網町の河岸地と集積する荷舟の様子が見て取れます。一方で、中央には日本橋川沿岸に華麗なベネチア・ゴシック様式の波沢栄一の邸宅、右奥には擬洋風建築の第一国立銀行が立ち並ぶ光景も目に入ってきます。江戸時代以来の風情と明治東京の新名所が並存していた時代の特徴を捉えています。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>

エリアF

- カトリック築地教会聖堂
- 指紋研究発祥の地
- 浅野内匠頭邸跡
- 蘭学事始地
- 電信創業の地
- 築地小劇場跡
- 築地本願寺
- 酒井抱一墓
- 土生玄碩墓
- 波除稻荷神社の天水鉢
- 旧浜離宮庭園



歴史と文化

カトリック築地教会聖堂 (中央区民文化財)

● 明石町5-26



カトリック築地教会は、明治初期に築地外国人居留地内で創建された教会です。関東大震災で旧聖堂が焼失したため、昭和2年(1927)に現在の聖堂が再建されました。ギリシア神殿を想起させるこの聖堂は、壁面をモルタル塗りで仕上げた木造建築です。正面には重厚な6本のドリス式オーダー列柱が並び、切妻屋根の壁にはバラとユリのレリーフが施されており、外国人居留地の面影を今に伝える歴史的な建造物となっています。

指紋研究発祥の地

● 明石町8-1先



現在の明石町一帯には、明治元年から明治32年(1899)まで外国人居留地がありました。居留地18番に居住したイギリス人医療宣教師のヘンリー・フォールズは、大森貝塚の土器に残った古代人の指紋や指印を用いる日本の習慣を手がかりに、世界初の科学的な指紋研究を行いました。

浅野内匠頭邸跡 (東京都指定文化財)

● 明石町10-11



江戸時代に播磨国(現在の兵庫県)赤穂藩浅野家の上屋敷があった場所です。元禄14年(1701)に3代藩主・浅野内匠頭長矩は江戸城中で吉良上野介へ刃傷に及んで切腹を命ぜられました。翌年12月、本所・吉良邸に討ち入って主君の仇をなした浅野家旧臣(四十七士)の事件は有名です。

蘭学事始地 (東京都指定文化財)

● 明石町11先



江戸時代に豊前国(現在の福岡県)中津藩奥平家の中屋敷があった場所です。中津藩医の前野良沢、若狭国(現在の福井県)小浜藩医の杉田玄白、蘭方医の中川淳庵・桂川甫周などが奥平家中屋敷に集まってオランダ語の解剖書『ターヘル・アナトミア』の解読を行いました。安永3年(1774)、苦心の末に『解体新書』と題した翻訳書を完成させました。この場所は、蘭学研究や日本の近代医学が芽生えるきっかけとなった場所です。

電信創業の地

● 明石町13-10先



明治2年(1869)に日本で初めて公衆電気通信(電報の取り扱い)業務を開始した記念碑です。開設時は、東京運上所内(伝信機役所)と横浜裁判所内との間に、約32キロメートルに及ぶ電信線を架設して電報の送受信を行いました。運上所跡は石碑から約40メートル南南東の辺りです。

築地小劇場跡

● 築地2-11-17



築地小劇場は、大正13年(1924)に日本初の新劇専用劇場(同名の劇団を付設)として開場しました。土方與志(演出家)・小山内薫(演出家・劇作家)を中心に設立した同劇場は、高い天井にドーム型の湾曲壁(クッペルホルizont)、可動舞台や優れた照明設備を持つ新劇の拠点でした。

築地本願寺 (国指定重要文化財)

● 築地3-15-1



文化財 記念碑

築地本願寺は、昭和9年(1934)に建築家・伊東忠太が設計した鉄骨鉄筋コンクリート造(地上2階・地下1階)の建物です。外観は古代インドの建築様式を採り入れ、内部は伝統的な浄土真宗寺院の形式となっています。花崗岩が用いられた本堂は、各部の秀逸なデザイン(正面入口の破風、柱頭装飾、銅板葺きの円形屋根、左右の翼部に置いた仏塔形状の塔屋など)が一体となり、全体として調和のある外観を創り出しています。

酒井抱一墓 (東京都指定文化財)

● 築地3-15-1 築地本願寺境内



土生玄碩墓 (東京都指定文化財)

● 築地3-15-1 築地本願寺境内



江戸時代後期の画家・俳人である酒井抱一は、播磨国(現在の兵庫県)姫路藩酒井家の出身です。寛政9年(1797)に西本願寺第18世文如上人のもとで得度を受け、隠居後に本格的な文人生活に入りました。尾形光琳に私淑し、粋で洒落な独自の画風(江戸琳派)を確立しました。

江戸時代後期の眼科医・土生玄碩は、奥医師として將軍の眼病治療にも当たりました。シーボルトから散瞳薬(瞳孔を散大させる薬)の製法を学び、謝礼に將軍拝領の葵紋服を贈ったことが発覚して罰せられました。眼球(白内障)手術を行い、実証的な西洋医学を研究した人物です。

波除稻荷神社の天水鉢 (中央区民文化財)

● 築地6-20-37



波除稻荷神社の南には、江戸時代に尾張藩の蔵屋敷(旧築地市場跡地の南半分)がありました。本殿前の天水鉢(釜屋六右衛門の鑄造)は、天保9年(1838)に尾張徳川家の蔵屋敷で働く小揚人足(尾張藩船からの船積荷物を陸揚げする作業員)が航海安全を祈願して奉納したものです。

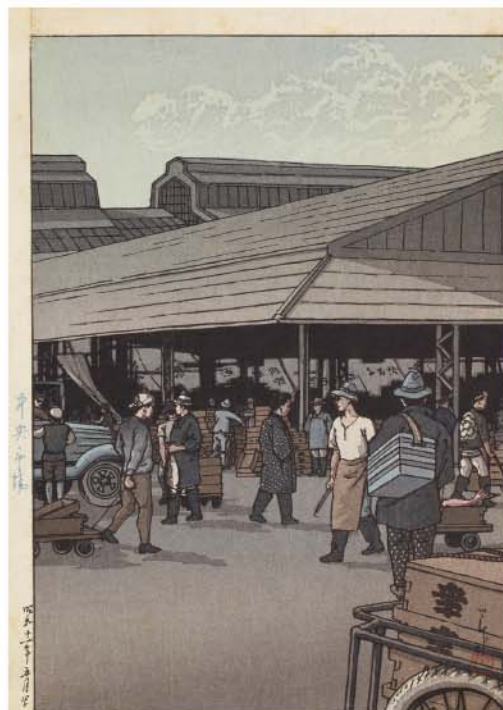
旧浜離宮庭園 (国指定特別名勝特別史跡)

● 浜離宮庭園1-1



この庭園は、徳川將軍家の鷹狩場、甲府藩主・松平綱重の下屋敷を経て、6代徳川家宣の大改修で將軍の別邸「浜御殿」となりました。その後も造園や整備が進められ、潮入りの池をもつ名園が完成しています。明治維新後は「浜離宮」(宮内省)、戦後に恩賜庭園(東京都)となりました。

歴史モノがたり



Episode 6

新東京百景 中央市場

昭和11年(1936) 川瀬巴水/画

昭和10年(1935)に日本橋魚河岸と京橋大根河岸(青物市場)の機能を併せ持つ「中央卸売市場」が築地の地へ新設・開場されました。この版画には、開場から間もない築地市場内の売り場の様子とそこで働き行き交う人びと(卸売・仲買・小売)の日常的な風景が写し取られています。作者の川瀬巴水による鋭い観察眼と類まれな表現力によって、市場内を包む空気や周囲の音までもが感じられるような作品です。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>



歴史と文化

陶製住吉神社扁額 (中央区民文化財)

● 佃1-1-14



住吉神社の石造鳥居に掲出された陶器製の扁額です。縦109センチ・横97センチの額面には、有栖川宮職仁親王の筆で「明治十五年壬戌六月三十日 住吉神社 一品機仁親王」の揮毫があり、縁には雲文や鷺(住吉神社の神紋)も描かれています。陶器問屋から寄進された珍しい扁額です。

海水館跡 (中央区民文化財)

● 佃3-11-19迄



明治38年(1905)に下宿兼割烹旅館として開業した海水館の跡地です。東京湾を臨む風光明媚な場所であったため、明治末期から大正期にかけて多くの文人たちが利用しました。島崎藤村や小山内薫なども海水館に寄宿して作品を執筆しています。跡地には記念碑が立てられています。

佃島渡船場跡 (中央区民文化財)

● 佃1-11-4・湊3-18



江戸時代から昭和39年(1964)まで隅田川の兩岸を結ぶ渡し船がありました。石碑の立つ場所には、かつての佃島と対岸の船松町との間を渡す船の発着所があったところです。当地の石碑は、昭和2年(1927)に渡船場施設が完成し、無料の曳船渡船を開始した記念に建立されました。

晴海見本市会場記念碑

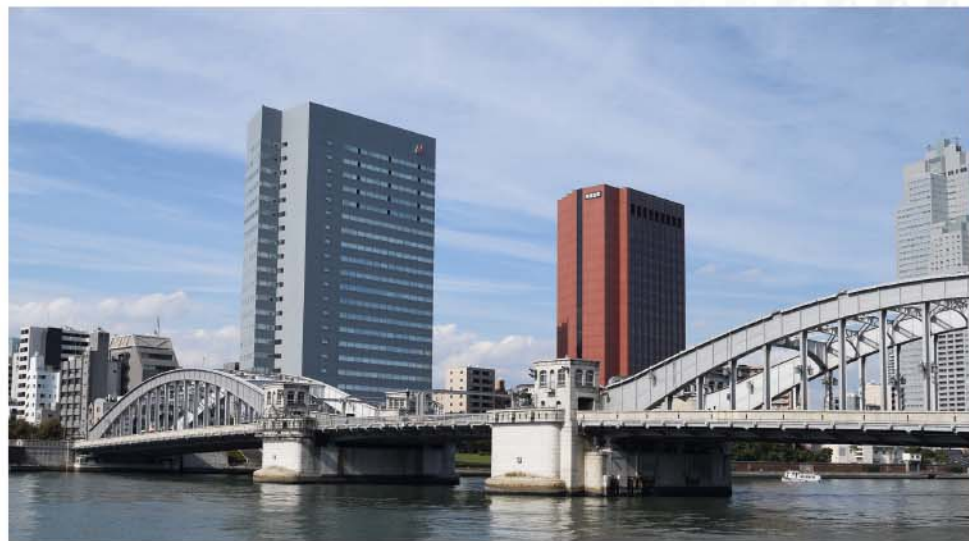
● 晴海5-2-3



昭和34年(1959)から平成8年(1996)まで、国際見本市を中心に大規模なイベントが開催された場所です。晴海には複数館からなる恒久的な展示施設が立ち並び、日本を代表するコンベンション・センターとしてにぎわいました。最盛期には、年間600万人以上の来場がありました。

勝鬨橋 (国指定重要文化財)

● 勝どき1～築地6



隅田川に架けられた日本で初めての二葉跳開橋です。昭和15年(1940)に竣工した当時は、東洋一の規模を誇る可動橋として1日5回の跳開運転が行われました。隅田川の上流には造船所や大型倉庫などがあったため、大型船舶の往復ができるように中央径間が「ハの字」に開く可動橋として設計されました。この橋を通過する大型船の減少や道路交通量の増加などから、昭和45年(1970)の試験開閉を最後に運転は停止されています。

歴史モノがたり

日本万国博覧会抽籤券附回数入場券 昭和13年(1938)



Episode 7

このチケットは、昭和15年(1940)3月に開催予定であった日本万国博覧会の前売り入場券(宝くじの抽籤券付き)です。戦前期に計画されたこの万博は、東京・月島の埋め立て地(現在の晴海地区)を主会場とする一大プロジェクトとして進められていましたが、戦争拡大のために開催が延期されてしまいました。そんな事情もあってか、未使用の旧入場券に限って大阪万博(昭和45年)や愛知万博(平成17年)でも入場券として認められました。

収藏品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>

エリア	施設名	所在地・電話	開館	休館日	料金
D	アーティゾン美術館	京橋1-7-2 TEL:03-5777-8600	午前10時	月曜日	有料
G	石川島資料館	佃1-11-8 ピアウエストスクエア1階 TEL:03-5548-2571	午前10時	水・土曜日	無料
A	小津史料館	日本橋本町3-6-2 小津本館ビル3階 TEL:03-3662-1184	午前10時	日曜日	無料
A	貨幣博物館	日本橋本石町1-3-1 TEL:03-3277-3037	午前9時30分	月曜日	無料
F	かちどき 橋の資料館	築地6-20-11 TEL:03-3543-5672	午前9時30分	日・月・水曜日	無料
B	小伝馬町牢屋敷展示館	日本橋小伝馬町5-19 十思スクエア別館内	午前9時	年末年始	無料
F	松竹大谷図書館	築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階 TEL:03-5550-1694	午前10時	土・日・祝日 月末木曜日	無料
E	東証Arrows	日本橋兜町2-1 東京証券取引所内 TEL:03-3666-0141	午前9時	土・日・祝日	無料
E	中央区立郷土資料館	新富1-13-14 本の森ちゅうおう1・2階 TEL:03-3551-2167	午前9時	第3木曜日	無料
E	中央区立京橋図書館	新富1-13-14 本の森ちゅうおう2~5階 TEL:03-3551-2151	午前9時	第3木曜日	無料
G	中央区立月島図書館	月島4-1-1 月島区民センター3階 TEL:03-3532-4391	午前9時	第4木曜日	無料
C	中央区立日本橋図書館	日本橋人形町1-1-17 日本橋小学校複合施設6・7階 TEL:03-3669-6207	午前9時	第4木曜日	無料
A	日本橋歴史アーカイブス	日本橋本石町4-4-18 常盤小学校別館 グリーンテラス常盤1階ギャラリー	午前10時	土・日・祝日 のみ開館	無料
A	三井記念美術館	日本橋室町2-1-1 三井本館7階 TEL:050-5541-8600	午前10時	月曜日	有料

あ	33 F
浅野内匠頭邸跡	24 D
石川啄木歌碑	8 A
一石橋の親柱	8 A
一石橋迷子しらせ石標	29 E
永代橋	21 D
江戸歌舞伎発祥の地	11 B
江戸屋店舗兼住宅	30 E
於岩稲荷田宮神社の鳥居・百度石	27 E
海運橋親柱	39 G
海水館跡	40 G
勝間橋	33 F
カトリック築地教会聖堂	27 E
其角居住跡	24 D
北村透谷・島崎藤村記念碑	36 F
旧浜離宮庭園	21 D
京橋大板河岸青物市場跡	22 D
京橋の親柱	18 C
清洲橋	28 E
銀行発祥の地	23 D
銀座出世地蔵尊	23 D
銀座発祥の地	28 E
靴業発祥の地	17 C
小網神社社殿・神楽殿	14 B
講談発祥記念の碑	35 F
酒井抱一墓	33 F
指紋研究発祥の地	14 B
順天堂発祥の地	17 C
震災避難記念碑	12 B
榎森神社	7 A
高島屋東京店	27 E
智泉院の天水鉢・地藏菩薩立像	34 F
築地小劇場跡	35 F
築地本願寺	39 G
佃島渡船場跡	17 C
鉄造菩薩頭	28 E
鐵砲洲稲荷神社	34 F
電信創業の地	11 B
伝馬町牢屋敷跡	12 B
銅鐘石町時の鐘	39 G
陶製住吉神社扁額	23 D
銅造彫刻「燈臺」	5 A
常盤橋門跡	29 E
豊海橋	

な	36 F
波除稲荷神社の天水鉢	17 C
日本銀行創業の地	5 A
日本銀行本店本館	6 A
日本橋	6 A
日本橋魚市場発祥の地	35 F
土生玄碩の墓	13 B
ハリオガラスビル	39 G
晴海見本市会場記念碑	6 A
三井本館	5 A
三越日本橋本店	29 E
南高橋	21 D
明治屋京橋ビル	7 A
名水白木屋の井戸	11 B
木造日蓮聖人坐像	13 B
柳橋	22 D
ヤン・ヨーステン記念碑	7 A
郵便発祥の地	12 B
吉田松陰終焉の地	34 F
蘭学事始地	13 B
両国広小路記念碑	29 E
霊岸島検潮所・量水標跡	22 D
煉瓦銀座の碑	



令和5年11月発行 刊行物登録番号 5-084
 編集・執筆 増山一成(学芸員)
 発行 中央区教育委員会郷土資料館
 〒104-0041 中央区新富1-13-14
 電話 03(3551)2167
 制作 株式会社 中央ジオマチックス

